



今回は、平古古墳をご紹介します。

平古古墳は、かつて市北部の柏原町に所在しました。中田池の東側に、陣ノ山丘陵という標高75メートルほどの丘があり、その頂上部分に古墳がありました。陣ノ山丘陵は、平成5年の県営緊急畑地帯総合整備事業で標高48メートルほどまで削られていて、現在ではきれいに整地された畑地になっています。平古古墳の発掘調査は、この整備事業に伴う事前の緊急発掘調査として、平成4年7月6日から1カ月ほどの期間で行われました。

調査の結果、残念ながら墳丘や石室は大きく壊されていました。それでも、石室の下半分は比較的良く残っていることが確認できました。入口の部分には2段の階段

土器のフタにも土器がある？

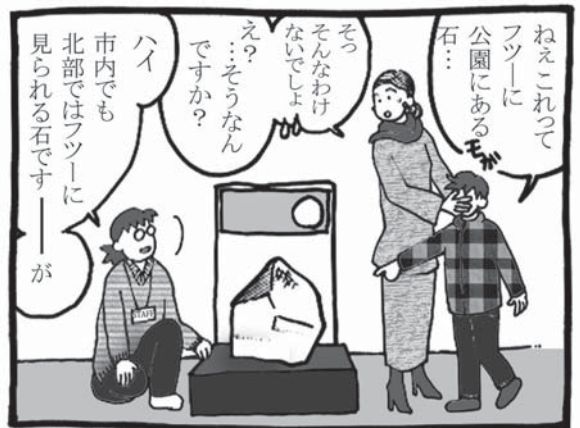
が造られていて、石室に入るにはその階段を下りる構造(竪穴系横口式石室)になっていました。そして、石室の中からは、葬られた人へのお供え物(副葬品)として須恵器、刀、馬具、耳飾り、ガラスの玉類などが、良好な状態で出土しました。

中でも、この古墳で注目されるのは、副葬品として出土した須恵器の壺(写真)です。この壺、アシ(底に付いている台座のようなもの)が付き、フタが付き、さらにフタの上に小さな土器まで付いています。この小さな土器はハソウと言って、お酒を飲むために使ったと考えられているものです。このような須恵器は、最初からお供え物として作られるもので、特にこの形は県内でも数が少なく、とても珍しいものです。

博物館2階の歴史展示室に、たくさんさんの須恵器と一緒に展示しています。ぜひ探してみてください。



いろいろ付いてる豪華な壺



竜宮城は生命のふるさと？

「地球最後のフロンティア、深海に眠るもうかりのタネー」との触れ込みで、人工的に海底温泉を作るといふ計画が、テレビの経済番組で紹介されていました。温泉と言っても吹き出すお湯は、地下深くでマグマに加熱された、数百度を超える熱水。これが深海で冷やされると、溶け込んでいた金銀銅や亜鉛などの金属が、硫黄などと一緒析出します。これを資源として活用しよう、というお話です。

天然の熱水噴出孔は、深海のオアシスといわれるほど、貝やエビ、カニ、ゴカイをはじめ多数の生物がひしめく場所でもあります。タイやヒラメの舞い...は無いかもし

身近なところにも！深海



くわしくはWEBで！じゃなかった科学館で！



館長 山中 敦子

生命の海科学館
☎ 66・1717